

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500041		
法人名	合同会社光		
事業所名	合同会社光 グループホーム輝		
所在地	長崎県佐世保市鹿町町土肥ノ浦21番地7		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年2月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成 23 年 1 月 29 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のなかで楽しく1日を過ごしてもらえように対応しております。入居者様やその家族の方にも支えられ2年目を迎えようとしております。今年度は昨年の輝での行事を踏まえて入居者様の評価・家族様からの評価を超えたいという今年度の目標を掲げ一日の流れ、行事を去年より楽しめるようにしました。利用者様と一緒に行事の準備をする事が日常化されるようになりました。また最勝寺内科医院の協力もあり夜間など急変など24時間体制で対応させてもらっています。毎週火曜日には最勝寺内科からの訪問あり入居者様・家族様もより安心できております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2009年の1月1日に開設した、医療機関が母体のホームである。「楽しい」「面白い」「美味しい」などメンタル面での満足度の向上を今年度の目標にされており、利用者の表情の豊かさがその成果を物語っている。特に、行事の計画から実行までの間の準備には、利用者も可能な限り参加されるなど協同した取り組みは、利用者や職員のやりがいや達成感、満足につながっている。利用者が心を開いて職員とコミュニケーションが取れている反面、職員の気の緩みから礼節に欠ける場面や職員主体の業務に傾斜している部分もあるので、今一度、全職員で業務の振り返りをされ真心・愛のある「楽しい」家庭的なホームづくりを目指されることに期待したい。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員と話し合った理念をもとに日々の実践につなげています	H22年度の目標を「行事や日常生活が昨年より楽しいなど、利用者や家族、職員からプラスの評価が得られるよう」と設定され、職員の積極的な取り組みは利用者等にも反映され、自分達で作り上げていく喜びを実感されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的には交流できてはいませんが、季節ごとの地域の行事にて交流できています。 例えば幼稚園の運動会、町の文化祭など	事業所について、地区内の理解を得るまでには至っておらず、地区会への加入もままならない状況ではあるが、地区長の善意で回覧板の内容を提供してもらうところまではこぎつけられている。地区内のマラソンの中継地点に事業所前がなっていることでトイレの提供をされたり、地区のフラダンスや日舞等のクラブ活動の慰問を兼ねた発表の場所として事業所を開放されており、地道に着実と地域に溶け込まれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修に職員が参加しています。地域住民への還元することができていないが、入所者へのケアには生かすことができています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	佐世保市への合併までの運営推進会議では2ヶ月に一回で開催できていたが、合併後に市役所の職員や地区長さんが変更があり1回分できていません。前倒して1ヶ月に1回行おうと考えていますが、調整できておりません。現在、構成員を増員しようと考えております	自己評価の時点では、参加メンバーの出席率と回数に拘りを示されていたが、調査当日は、運営推進会議の中身にも目を向けられ、グループホーム運営の質を盛り上げるための構成メンバーとして駐在所員や消防団員への声かけも必要ではないか考案されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やホーム内での大きな行事の際には必ず担当へ連絡し参加を誘っています。なかなか時間があわずこれないことがおおいですが、密に連絡をとるように心がけています	H22年度の市町合併で、鹿町町から佐世保市に保険者が変わり、担当者も変わっている中、従来と変わらない関わり方で臨まれている。一方、グループホーム連絡協議会活動への参加でラインの確保に努められている。	町から市へ、世帯が大きくなったこともあり市の担当者との直接的な連携の頻度は減少しても、行政窓口へ届くネットワークシステムなどの更なる活用の工夫に期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束している方はいません。入り口のドアは開ける度にセンサーが反応しチャイムと光を放ち知らせます。現在は不穏行動や落ち着きない入居者様に対しては、椅子に座らせるのではなく、一緒に散歩するなど対応しています。身体拘束しないケアを心がけています	事業所として、「身体拘束をしない方針」は全職員に周知されており、爪たてなど日常生活で利用者に問題行動等がある場合は、その都度全職員で事例検討し、職員の対応法等を工夫することで身体拘束をしないケアを推進されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡協議会やブロック会議などで虐待についての調査報告など参加させていただきました。しかし虐待をメインとした研修には参加することができませんでした。職員の対応などしっかり見ることで虐待を見逃さないように注意しております		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用するかたはいません。司法書士による成年後見制度についての勉強会に参加させていただきました。職員には勉強会での資料を使ってケア会議で発表しました。より職員全員にも把握してもらうために今後職員にも勉強会などに参加してもらいます			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の不利益につながる取り決めをせず事業所で、できる事・できない事を明確にして説明しています。契約解除の際は話し合いをし解除に至っている			
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情など相談箱を設けるが現在は投函がありません。家族の方が面会時は各職員が家族様へ挨拶をする中で意見などである場合、申し送りなどで話し合い速やかに対応しています。約2年間も入居しているため家族様とも以前よりも十分にコミュニケーションを図れています	家族等の面会がある時は、帰り際の声かけを重視し、日頃の様子を伝えながら、面会時の様子や気付きをさりげなく聴取されている。最近の要望では、町外受診について、職員同行を希望されるが、事業所では基本的に町外受診の対応はされていない。職員の時間的拘束と業務への影響が大きいことをあげられており、良策を検討中である。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り・それ以外の時間に職員からの意見を聞き考慮した結果運営に取り入れられている 管理者も業務にはいるため輝スタッフ全員で運営を考えています	母体医院の医師でもある経営者の定期的な往診や会議等への参加等で、現場の状況把握や職員と接触する機会作りはされている。経営者の「誰にでも気持ちよく入浴してもらいたい」の意向を受けて、入浴状況により午前と午後の湯を貼り直し、清潔感と爽快感の入浴支援に努められている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケア会議のあとなどで職場環境・条件の向上のため話合う時間をつくっていますが、職員からの要望など現在は具体的にできていません			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修の参加はそのつど促しています。今後法人内外の研修を受けるよう準備を進めるところです			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保グループホーム協議会に参加することでネットワークづくりや勉強会などに参加しています 今後も引き続き参加していこうと思います			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅に何いどのような生活をされているか入居に際して不安な事・要望を本人、家族から聞き入居前は自由に施設内を見学していただくようにしている。入居後も日々の生活の中会話を通して要望などに耳を傾けています		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から入居にあたり基本情報を聞く際要望を会話することで理解していません。面会時には必ず話すようにしています。3ヶ月毎の介護計画書のサインの際プランの変更や近況を報告をする。その中で要望を話せる場をつくるようにしています		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できることはすぐに実行するように心がけています。できないことに対して十分考えて計画を考えて行こうと思っております		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に畑を作り収穫をしたり、茶碗あらい洗濯物をたたむなど家庭的な環境を気づこうとしています		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には職員が現状などを伝えるようにしています。その中で家族の方からの不安や要望があればすぐに行動し対応するように心がけています		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親族の方が自由に来て頂けるよう声かけしている。家族様がこれないときなどは柔軟に対応するなどして近距離のところであればスタッフが車にてなじみの場所へ行くなどしています。その際は家族に相談し許可をもらって行きます	訪問した日、利用者の子供の還暦のお祝いの衣服を、祝い事だから正月の月に済ませたいと雪のチラつく極寒にもかかわらず、菩提寺まで祈願しに、利用者と家族とが一緒に連れ立って出かけられていた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共用空間にソファ、堂テーブルがあり名前が書いてある席につき寛ぐことができているようです。職員は、レクリエーションなどで居室にこもらない様に参加しやすいレクリエーションを考えています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の密着のため地域の行事に参加する事で出会うことがあり関係性を保っています。再会しグループホームに遊びにくるきっかけになったり、まったく疎遠になるなどの事例があります		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族へこれから生活していく中での希望、要望を聞き又生活歴から身につけている楽しみ等を認識するように心がけています 困難な場合は精神・身体状況から思いを汲み取っています	病院受診の移動時や入浴時など利用者と職員が1対1の関係になった時の会話の内容に気配りされている。訪問前日の病院受診の帰路、利用者の「この道は〇〇に行ける。」の何気ない一言に、「行ってみましょうか」と、少し遠回りされている。本人の心に響いたのか訪問した日に、利用者が懐かしさを嘔みしめながら嬉しそうに現職時代の職場のことまで雄弁に話され、「職場は方向が違うので、ちょっと遠い。あっちにはほとんど行かんもんね」と職員の機転が利用者の思いや意向の把握に反映されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までどのように生活又は習慣等を大切に続けていけるように介護計画に取り入れてます		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方は日々の日誌に記載していません できていたことは日課にし職員と共にしている事からできることをアセスメントしています		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは職員間で話し合いながら作成しています。介護計画は現状に合わせて計画を立てております。2年以上勤続しているスタッフには担当入居者の介護計画を自分なりに考えてもらうなど個別的な計画をたてるように計画をたてています	介護計画は利用者のできていることに着目し、現状維持を目指した支援をされている。アセスメントは利用者の担当職員が記入し、職員の気づきや日々の記録を基にケアマネジャーが中心になって作成した介護計画を、家族に説明し同意を得られているが、日々の記録やモニタリングが単なる実施記録になっている。	介護計画に沿った日々の記録やモニタリングが、次の介護計画に反映される判断材料としての役目を担う記載に期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月1日におこなっているケア会議にて見直しをするようにしていますが、会議が開催できないこともあるため、問題があがりしだい申し送りや昼休みに情報を共有し介護計画を見直すようにしています		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・家族から相談などあればすぐに管理者へ報告し相談しながら対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事に参加しています。町内会には参加していませんが、地区長さんから回覧版で流す内容を、届けてもらっていますので、町内の行事などを把握しています		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町外かかりつけ医の受診の際には家族へ連絡ノートを渡しかかりつけ医に現状を伝えていきます。町内のかかりつけ医の受診は管理者がかかりつけ医へ状況報告をしています	基本的に、町外のかかりつけ医の受診は家族同行で契約されているが、現在、家族から「ホーム職員に同行を委任したい」要望を伝えられており、ホームとしての対応を勘案されている。尚、母体医院の医師による毎週火曜日の往診と管理者が看護師という状況の中、利用者の健康管理はされている。又、協力医療機関が夜間と日中で異なっているので医療連携加算の体制は特に重要な役割を担っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者・計画作成担当者は看護資格を有している 介護職は利用者さまの身体状況の変化をすぐに管理者及び計画作成担当者へ報告しています		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族へ入院の状態など電話などで状態を聞くなど行いました。退院後の注意点などサマリーなどから把握するなどしています。医療機関と三位一体となって退院計画を具体的に立案などできていませんが、医療機関からの指導を十分に反映したりハビリなど日常生活に取り入れています		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前の契約時に看取りについて説明していますが、その後の状態などで家族様に説明しております。家族からの意向である病院には急変時の際の連絡など施設側から連絡するようにしています。	看取りについて契約時に同意を取られているが、その都度の話し合いを通じた対応を心がけられている。重度化の場合でも、家族の了解の下、3ヶ月を目安に長期在籍で利用者の戻る場所を保証し、家族や本人の不安解消につながれている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに手順をのせ、急変時の対応として勉強会に参加するなどしています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し職員に目を通してもらっていますが5月、11月の年2回避難訓練を行っています。11月には地域の方にも手紙をだし消防署の監修による消火訓練をすることを手紙にだしております	地域への働きかけはされているが、成果に繋がっていない現状を踏まえて、協力体制作りには諦めない取り組みが必要であることは理解されている。更に、介護サービスの情報公表や外部評価の取り組みを通して、災害時に必要な確かな情報と冷静な判断、ライフラインの確保につながるマニュアルや連絡体制の見直しの必要性を認識されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分に気をつけて言葉遣いに注意しています。 しかしその中で対応できていないときはその都度職員を注意しています。	利用者の前を通るときのことわりの声掛け、又は背後へ回る配慮、利用者の下膳の行為に対する感謝の声掛け無しの小言など、利用者との関わりに礼節が不足している。	業務が常態化しないように定期的な業務の振り返りや接遇マナー等の研修の取り組みに期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような直接的な支援を行うように日々の生活のなかで心がけています 例えば、ゆっくりした時間などを利用して会話をするなど思いや希望を汲み取るようにしています		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れがありますが入浴は毎回確認しています。午前・午後はいらないようであれば夕食後など本人様にきめて頂いています。また入る順番は固定化しないように、その日の入居者様の状態などから考えて入浴して頂いてまうs		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立したかたが多いため大半は自己でおしゃれなど洋服を選んで頂いています。 各行事などの時にも、化粧道具を用意し化粧などしてもらっています		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配茶・テーブルふき・ご飯をつく・片付けなど手伝って頂いております。入居者様と話中で食べたいものがあればおやつなどに取り入れれたりしています。	遅出の職員の業務は、昼食を利用者と一緒に摂らないで見守りや食事介助、配薬等となっている。訪問した日、テーブル脇で見守りされていた遅出職員に、利用者が「あんたも食べんね、俺のを半分やる」と何度も声掛けされていた。	側に立たれた環境で食事する人の立場も考慮され、職員にとっての職場である以前に利用者にとっての共同生活の場であることを大事にした環境作りに期待したい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌には毎日の食事・水分量を記載して確認しております。栄養状態は体重と月に一度かかりつけの病院での採血データ(TP・ALb)から判断しております		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを促して行っております。 その人にあわせた対応をさせてもらっています。 ボリデントなどの薬品に近い物は職員が行っております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の申し送りなどで話し合いながら自立にむけた支援を考えております。しかし現状はADLの維持しかできておりません	座位の大切さを理解されており、できるだけ「おむつ」に頼らない、トイレでの排泄支援に努められている。又、ポータブルトイレは夜間のみ使用である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々のことも考えています。 現在は十分な水分量・運動を考えて毎朝ラジオ体操をするなど行っております。 高齢による便秘傾向は改善できない場合は、各かかりつけ医へ連絡し対応しております		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々にそった対応をしております	基本的に毎日沸かされており、利用者の状況や希望に応じて夜間の入浴支援もされている。又、入浴状況に応じてお湯を午前と午後で入れ替えることもされており、入浴による爽快感につながっている。入浴剤は、利用者と一緒に買い物に行き利用者を選んでもらわれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡などは2時間ほどを考えていますが長くなると昼夜逆転しますので3時のおやつにはおきてもらうなど対応しています		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者のカルテに内服中の処方プリントなどはさめておりいつでも目を通せるようにしています。新しい薬が出た場合は副作用を申し送りで伝えるようにしています		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換・楽しみごとなど支援していますが本人様のペースですしておりますので毎日の日課になるほどなどではありません		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物などいとき入居者様に声をかけるなどしてドライブをしたり本人様の希望があれば家族様と相談して対応しています。	利用者と一緒に散歩を兼ねて近くのファミリーマートまで出かけ、近くのベンチでおやつを楽しまれることもある。又、1日の流れの中に自由時間の設定をされており、理念の中の「利用者の自主性を尊重し」の具現化につながる取り組みを外出支援にも反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	委任状を用意しており受診の際の支払いなどを行っています。認知症があるため金銭自己管理はむずかしく誇大妄想もあるため家族様と相談し利用者様がお金をもつことがないようにしています。しかし1人の入居者様が支払いなども自己管理しております		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時に対応しています 手紙のやりとりなど現状ありませんが希望あれば対応します。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に日付けがわかる様に手作りカレンダーを作成し行事の写真をかざるなど思い出や季節感をだしています。 押し車や車イスのかたが通れるようなスペースを用意しております	かつてのデイサービス事業所だったところに増設してグループホームを開設されており、家庭的なリビング以外にパブリック的な広い多目的ホールがあり、集いや独り居が場面を変えて自由に選べる環境である。又、小さな集落的住宅地の中にあるホームではあるが、事業所内の窓越しの風景や人の動向などで、社会とのつながりや季節感を得ることができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お気に入りの場所にイスを配置しています。 多目的ホールの畳の部分で午睡する入居者様のためカーペットと枕を用意するなど過ごしやすい 環境を提供できていると思っております		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際なじみのあるものを持ち込んでもらえるように伝えています。 仏壇・枕・位牌・神台・食器・布団など	見せていただいた居室からは、利用者の趣味や日常生活の様子などを窺い知ることができ、調度品なども利用者の動線や状態に応じた配置がなされている。利用者在室の居室を見学させていただいている時、居室が家族とのつながりと安らぎの場所になっているのか、利用者のほうから「午前中、娘が来た」と言ってから、最近の自分の出来事などを嬉しそうに話された。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴は本人様が好きなときに入って好きな時間利用できるようにしています。転倒の危険がある方は手の届く距離で見守りしています。ADL維持のために本人様の残存機能を利用し介護しております。すべてをするのではなくあくまでも私たちは手助けをするだけと考えています		